

第 7 期 柏市 高齢者いきいきプラン 2 1 の実績について
(取 り 組 み 編)

【 評 価 の 目 安 】

- ◎ : 計 画 を 上 回 っ て 進 ん で い る 100% 超
- : ほ ぼ 計 画 ど お り 進 ん で い る 80~100%
- △ : 計 画 よ り や や 取 り 組 み が 遅 れ て い る 60~80%
- × : 計 画 の 取 り 組 み が 遅 れ , 見 直 し が 必 要 で あ る . . . 60%未 満
- : 未 評 価 (新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス の 影 響 に よ り 評 価 不 可 も 含 む)

第1章 いきいきとその人らしく暮らせるまちづくり

第1節 フレイル予防の推進

【評価結果（令和2年度）】

	◎	○	△	×	－	合計
評価	2	1	4 (4)	2 (2)	1	10

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
要介護認定率の減少 (80歳～84歳)	指標	－	－	18.7%
	実績	17.6%	17.3%	16.4%
	評価	－	◎	◎
フレイル予防に取り組む 高齢者数	指標	14,415人	15,135人	15,891人
	実績	14,899人	15,739人	12,094人
	評価	○	◎	△(※)

・評価欄の(※)部分は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【評価・第8期の方向性等】

第7期では、フレイル予防に取り組む高齢者数が令和元年度まで増加を続けていたほか、健康づくりやボランティア活動などに参加する方を増やすため、40歳以上の方を対象とした、かしわフレイル予防ポイント制度を始め、様々なボランティア団体や通いの場、スポーツジム等、ポイント対象事業の拡大や啓発を行いました。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、フレイル予防活動に取り組むことが難しい状況が続きました。

新しい生活様式の下、感染予防対策を取りながら、フレイルチェックや介護予防講座を実施するとともに、自宅でできる体操やストレッチ等の介護予防紙面講座のリーフレット配布、簡単にできる体操の動画配信等、新たな取り組みを試みましたが、フレイル予防に取り組む高齢者数は減少しました。

第8期では、フレイル予防ポイントの普及等、現役世代も含めてフレイル予防活動の認知度を広めていくこととあわせて、新しい生活様式に対応した、市民主体のフレイル予防活動を進め、年代別の要介護認定率の減少や、介護度の軽度化に繋げるよう、取り組みを進めてまいります。

第1章 いきいきとその人らしく暮らせるまちづくり

第2節 高齢者の居場所づくり

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	—	合計
実績	0	1	1(1)	1(1)	1	4

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
通いの場の数 (週一型・常設型)	指標	21か所	26か所	31か所
	実績	24か所	26か所	26か所
	評価	◎	○	○
老人福祉センターの利用人数	指標	144,000人	144,000人	144,000人
	実績	143,294人	108,885人	23,437人
	評価	○	○	×(※)

・評価欄の(※)部分は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【評価・第8期の方向性等】

通いの場については、新型コロナウイルス感染症の拡大や、場所や人材の問題により、新たな開設が難しい状況にあるなか、高齢化を理由に解散した団体もあります。

また、市内に3施設ある老人福祉センターは、いずれも老朽化対策が必要であり、修繕に関する優先順位を考えて順次対応していく必要があります。

第8期では、担い手や利用者の確保等、既存の活動団体への継続的な支援を行うとともに、地域支えあい推進員を通じて住民主体の新たな居場所づくりへの支援や、民間事業者と連携した居場所づくりへの提案を行います。

また、通いの場やサロンへの参加、老人福祉センターの利用について、かしわフレイル予防ポイントのポイント付与対象とすることで、活動意欲を高めてまいります。

第3節 多様な社会参加の推進

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	—	合計
実績	1	3	1(1)	1(1)	1	7

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
生涯現役促進協議会による求人開拓件数	指標	増加	増加	増加
	実績	増加	増加	増加
	評価	◎	◎	◎
ボランティアセンターへのボランティアの登録者数	指標	3,950人	4,050人	4,150人
	実績	3,786人	3,842人	3,312人
	評価	△	○	△(※)

・評価欄の(※)部分は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【評価・第8期の方向性等】

3年ごとに実施している健康とくらしの調査では、スポーツの会や趣味の会等に参加している方の割合が減少しているという結果になりました。

また、ボランティアセンターへのボランティアの登録者数が、新型コロナによる活動自粛や高齢化によるボランティアグループの解散等で登録者が減少しているほか、老人クラブの団体数についても減少しています。

一方で、高年齢者就労の拡充においては、生涯現役促進協議会による求人開拓件数を増やすことができました。

第8期では、引き続き高年齢者就労の充実を図っていくほか、地域でのボランティア活動を推進するべく、ボランティアのコーディネートや人材育成等に取り組んでまいります。

第2章 地域で高齢者を支える体制づくり

第1節 地域での支えあい活動の推進と相談体制の充実

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	—	合計
実績	2	7	3 (3)	0	1	13

※ () 内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
たすけあい活動団体数 (小圏域)	指標	41 か所	53 か所	65 か所
	実績	42 か所	49 か所	52 か所
	評価	◎	○	○
たすけあい活動の延べ利用件数	指標	17,000 件	19,400 件	22,300 件
	実績	12,800 件	21,457 件	15,512 件
	評価	△	◎	△(※)

・評価欄の(※)部分は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【評価・第8期の方向性等】

小圏域で活動するたすけあい団体は増加していますが、立ち上げ後の担い手、利用者の確保、活動の活性化に向けた取り組みが課題となっています。

また、たすけあい活動の利用者数は、年度ごとの増減はありますが、第7期中は増加傾向にあります。

第8期では、地域包括支援センター、支えあい推進員と連携した地域関係者への支援の継続と、市民及び介護支援専門員へのたすけあいサービスの周知を引き続き行います。

また、小圏域で活動している団体や、市域で活動している団体、近隣や同じ地域で活動している団体同士で支援内容等について意見交換を行いながら取り組みを進めてまいります。

第2章 地域で高齢者を支える体制づくり

第2節 在宅医療・介護の連携の推進

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	－	合計
実績	0	1	1(1)	1(1)	5(2)	8

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
利用者・家族の満足度	指標	－	－	増加
	実績	利用者82.5% 家族83.3%	－	62.6% (※)
	評価	○	－	－
在宅医療の認知度	指標	－	－	増加
	実績	68.1%	69.7%	62.6%
	評価	－	－	○

※平成30年度と令和2年度の調査（集計）方法は異なります。

【評価・第8期の方向性等】

第7期中は、医療及び介護の多職種連携の高まり等を目的とした研修等を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和2年度は開催を見合わせました。

今後、長期的に高齢化が進行し、在宅医療需要が高まることが見込まれるため、看取り対応等をはじめとする医療・介護職のスキル向上及び連携が促進され、本人や家族が望む暮らしを最期まで選択できる環境づくりが必要になります。

第8期では、第7期に引き続き、医療及び介護の多職種の顔の見える関係の構築や在宅医療に必要な知識を習得できる研修会等の実施により、在宅医療・介護多職種連携の向上を目指すとともに、訪問看護ステーションの基盤強化や看取り体制構築に対する支援等の在宅医療提供体制の整備を実施します。

また、市民への普及啓発事業等や、在宅医療に関する相談事への対応も引き続き続け、在宅医療利用者の生活満足度が高まるよう進めてまいります。

第2章 地域で高齢者を支える体制づくり

第3節 地域包括支援センターの機能強化

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	—	合計
実績	2	3	0	0	0	5

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
地域包括支援センターの 相談や問い合わせへの対 応満足度	指標	88.0%	90.0%	92.0%
	実績	95.9%	93.5%	90.3%
	評価	◎	○	○
相談件数（実件数）	指標	9,500件	10,000件	10,500件
	実績	9,823件	14,736件	12,674件
	評価	◎	◎	◎

【評価・第8期の方向性等】

第7期中に、西原地域及び柏の葉地域を担当する柏北部第2地域包括支援センター、及び、沼南圏域における相談体制の強化として、沼南地域包括支援センター高柳相談窓口を開設しました。

相談件数（実件数）が10,000件を超えている中、複合化・多様化する相談への対応が課題となっています。

第8期では、地域包括支援センターの活動評価を行い、事業の質の向上を図るとともに、地域ケア会議を実施し、個別課題の解決や地域課題の抽出、分析を行い、政策形成につなげる等、PDCAサイクルを意識した事業運営を行います。

また、地域ごとの高齢者人口等を勘案し、配置職員数や相談拠点の増設を検討します。

さらに、地域特性の分析を進め、それぞれの地域の特性に応じた各種活動を、地域関係団体と連携を図りながら展開してまいります。

第2章 地域で高齢者を支える体制づくり

第4節 認知症施策の推進

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	－	合計
実績	5	3	3(3)	1(1)	1	13

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
認知症サポーター養成講座 受講者数（累計）	指標	25,000人	28,500人	32,000人
	実績	26,097人	29,972人	32,026人
	評価	◎	◎	◎
認知症にやさしい事業所数	指標	40か所	60か所	80か所
	実績	74か所	97か所	111か所
	評価	◎	◎	◎

【評価・第8期の方向性等】

第7期では、認知症サポーター養成講座の受講者数や、検索支援アプリの協力者の人数、認知症にやさしい事業所数等を増加させ、認知症の人やその家族を見守る地域づくりを着実に進めることができました。

しかし、令和元年度に実施した健康とくらしの調査では、認知症の相談先を知っている人の割合は50%未満という結果も出ています。今後、高齢化の進行により認知症になる高齢者が増えていくことが見込まれる中、早期に相談に繋がること、そして、早期発見・早期対応により重度化防止に繋げることが重要になります。

第8期では、引き続き認知症の相談窓口を広く周知するとともに、早期発見・早期対応による認知症の発症や進行を遅らせる予防の取り組みと、認知症の人やその家族が住み慣れた地域で暮らし続けられる共生のまちづくりを進めてまいります。

第2章 地域で高齢者を支える体制づくり

第5節 権利擁護の充実

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	－	合計
実績	4	1	0	1(1)	2(1)	8

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
権利擁護に関する相談件数	指標	500件	550件	600件
	実績	350件	839件	652件
	評価	△	◎	◎
成年後見に関する相談件数	指標	100件	120件	140件
	実績	159件	249件	158件
	評価	◎	◎	◎

【評価・第8期の方向性等】

高齢者虐待防止の普及啓発・相談体制の整備については、講演会や研修会を令和2年度は開催することができませんでしたが、令和元年度までは参加人数が年々増えていました。

第8期では、高齢者虐待を早期発見し、困難な状況にある高齢者が尊厳を持って安心して生活ができるよう、関係機関のネットワークにより、緊急一時保護や措置入所等、必要な支援を講じてまいります。

成年後見制度を利用している高齢者は、第7期中に年々増えました。今後も高齢化の進行により、制度を必要とする方が増えることが見込まれるため、必要とする方が適切に利用できるよう、引き続き制度の普及啓発を進めてまいります。

また、専門職による後見人の不足が見込まれることから、新たな担い手として市民後見人の育成を推進するとともに、活動支援を行います。

第3章 安心して暮らせる超高齢社会のまちづくり

第1節 介護サービスの基盤の整備

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	－	合計
実績	0	6	5	0	3(2)	14

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
グループホームの定員数	指標	423人	441人	459人
	実績	423人	423人	423人
	評価	◎	△	△
特別養護老人ホーム及び地域密着型特別養護老人ホームの整備床数	指標	1,515床	1,675床	1,675床
	実績	1,515床	1,515床	1,528床
	評価	○	○	△

【評価・第8期の方向性等】

施設等の整備について、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）を令和2年度に2者選定しました（整備は令和3年度）。

介護老人福祉施設については、令和元年度に新設100床の事業者を選定（整備は令和3年度）したほか、令和2年度に増床及び転換により13床整備しました。

第8期では、介護老人福祉施設、特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護及び定期巡回・随時対応型訪問介護看護を整備する予定です。

また、介護人材の確保に向けて令和2年度を除き、「柏の○（わ）」や「介護の仕事相談会」を実施しました。

少子高齢化の進行により、介護を必要とする高齢者が増える一方で、生産年齢人口が減少することが見込まれます。ケアの質を確保しながら必要なサービス提供ができるよう、第8期でも、引き続き介護人材の確保・育成に取り組んでまいります。

第3章 安心して暮らせる超高齢社会のまちづくり

第2節 介護保険制度の持続可能性の確保

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	－	合計
実績	3	1	2(1)	0	2(1)	8

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
30日以内に要介護（要支援）認定をする割合	指標	60.0%	61.0%	62.0%
	実績	41.6%	44.1%	43.2%
	評価	△	△	△
ケアプラン向上プロジェクト（ケアプラン点検）実施回数	指標	30件	36件	36件
	実績	22件	27件	36件
	評価	○	○	◎

【評価・第8期の方向性等】

第7期中は、ケアプラン向上プロジェクトの実施回数を増やすことができたほか、柏市ケアマネジメントに関する基本方針を策定する等、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントの策定支援に向けた取り組みを進めてきました。

第8期では、介護支援専門員や介護事業所等、ケアマネジメントに携わるすべての関係者に対して、柏市ケアマネジメントに関する基本方針が浸透するよう周知してまいります。

市民向けの冊子関係について、これまでのものは内容が重複している冊子が多く、冊子ごとの対象者等が明確になっていなかったため、第7期中に、介護サービスが必要な人向け、元気な高齢者向け等、対象ごとにあわせた内容になるよう見直しを図りました。

第8期でも引き続き内容の見直しを図り、介護保険制度の趣旨を周知するとともに、適切な利用に繋げてまいります。

第3章 安心して暮らせる超高齢社会のまちづくり

第3節 庁内横断的な推進体制の整備

【評価結果（令和2年度）】

評価	◎	○	△	×	－	合計
実績	2	3	3(1)	0	3	11

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【主な指標・実績】

		H30	R1	R2
たすけあい活動団体数（小圏域）	指標	41か所	53か所	65か所
	実績	42か所	49か所	52か所
	評価	◎	○	○
支えあい会議（開催回数）	指標	30～50回	30～50回	30～50回
	実績	50回	34回	21回
	評価	○	○	△(※)

・評価欄の(※)部分は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

【評価・第8期の方向性等】

第7期では、柏市と東京大学、UR都市機構の三者で豊四季台団地及びその周辺地域において取り組んできた「柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会」による実証事業の成果を明らかにし、産官学連携で取り組む持続可能な長寿社会のまちづくりを市内全域へ展開できるよう、在宅医療の推進や、フレイル予防プロジェクト2025、地域支えあい会議等に取り組んでまいりました。

第8期では、引き続き産官学の連携を推進するとともに、民間事業者やNPO団体等の多様な団体、庁内のまちづくり部門等との連携体制を強化し、高齢化の進行により支援ニーズが多様化・複雑化していく中でも、高齢者の地域での生活を支えるためのまちづくりを進めます。

第7期柏市高齢者いきいきプラン2.1 重点施策別評価結果

政策目標	重点施策	平成30年度					令和元年度					令和2年度				
		◎	○	△	×	—	◎	○	△	×	—	◎	○	△	×	—
いきいきと 人らしく暮ら せるまちづくり	フレイル予防の推進	0	5	3	0	2	4	3	3	0	0	2	1	4(4)	2(2)	1
	高齢者の居場所づくり	2	1	0	0	1	1	3	0	0	0	0	1	1(1)	1(1)	1
	多様な社会参加の促進	2	3	1	0	1	2	4	1	0	0	1	3	1(1)	1(1)	1
	小計(21項目)	4	9	4	0	4	7	10	4	0	0	3	5	6(6)	4(4)	3
		19.0%	42.9%	19.0%	0.0%	19.0%	33.3%	47.6%	19.0%	0.0%	0.0%	14.3%	23.8%	28.6%	19.0%	14.3%
地域で高齢者 を支える体制 づくり	地域での支えあい活動の推進と相談体制の充実	7	4	1	0	1	5	8	0	0	0	2	7	3(3)	0	1
	在宅医療・介護の連携の推進	0	6	2	0	0	0	3	1	0	4	0	1	1(1)	1(1)	5(2)
	地域包括支援センターの機能強化	3	2	0	0	0	1	4	0	0	0	2	3	0	0	0
	認知症施策の推進	5	6	1	0	1	7	3	2	0	1	5	3	3(3)	1(1)	1
	権利擁護の充実	3	2	2	0	1	5	1	1	0	1	4	1	0	1(1)	2(1)
	小計(47項目)	18	20	6	0	3	18	19	4	0	6	13	15	7(7)	3(3)	9(3)
	38.3%	42.6%	12.8%	0.0%	6.4%	38.3%	40.4%	8.5%	0.0%	12.8%	27.7%	31.9%	14.9%	6.4%	19.1%	
安心して暮ら せる超高齢社会 のまちづくり	介護サービスの基盤の整備	3	8	2	0	1	2	7	4	0	1	0	6	5	0	3(2)
	介護保険制度の持続可能性の確保	3	2	1	0	2	2	4	2	0	0	3	1	2(1)	0	2(1)
	庁内横断的な推進体制の整備	4	3	2	0	2	4	3	3	0	1	2	3	3(1)	0	3
	小計(33項目)	10	13	5	0	5	8	14	9	0	2	5	10	10(2)	0	8(3)
	30.3%	39.4%	15.2%	0.0%	15.2%	24.2%	42.4%	27.3%	0.0%	6.1%	15.2%	30.3%	30.3%	0.0%	24.2%	
合計(101項目)		32	42	15	0	12	33	43	17	0	8	21	30	23(15)	7(7)	20(6)
		31.7%	41.6%	14.9%	0.0%	11.9%	32.7%	42.6%	16.8%	0.0%	7.9%	20.8%	29.7%	22.8%	6.9%	19.8%

※()内の数値は新型コロナウイルスの影響を受けたもの。

第7期柏市高齢者いきいきプラン21 総括

第7期期間中の最終年である令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、様々な取り組みにおいて実施方法の見直しを余儀なくされ、規模を縮小して実施した事業や、開催を見送った事業が多くなりました。その結果、各指標の評価結果においても、令和元年度までは◎と○の評価の合計が70%を超えていましたが、令和2年度は約50%となっています。重点施策「フレイル予防の推進」等、人が集まって実施することが前提となっていた事業については、取り組みを進めることが難しい状況が続いたこともあり、政策目標別では、特に政策目標1に関する評価結果が大きく下がっています。

新型コロナウイルス感染症や、各事業を十分に実施できなかったことにより、認定者数や給付費が急増するといった影響は、現時点では確認されていません。しかし、1年以上にわたる自粛生活により、社会との関わりや運動の機会が減ってしまっています。そのことにより、今後フレイルの状態になる方や、要介護認定を受ける高齢者が急増してしまう可能性も否定はできません。第8期では、新しい生活様式に対応しながら各事業の取り組みを進め、基本理念「すべての高齢者が、その人らしく、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまち 柏」の達成を引き続き目指してまいります。